

会議録

会議の名称	平成25年度 第2回加東市健康増進計画策定委員会
開催日時	平成26年3月6日(木) 13時30分から15時00分まで
開催場所	加東市役所 201会議室
議長の氏名 (鬼頭英明)	
出席委員の氏名	鬼頭英明 坂本泰三 藤原秀夫 山崎富子 小薮義正 松尾美智子 白井律夫 大久保知子 糟谷早苗 石田真由子 藤本正紀 黒崎みどり 藤本しげる
説明のため出席した者の職氏名	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	市民安全部(部長)阿江孝仁 健康課 (課長)二木佳子、(副課長)肥田繁樹、(主幹)大末美佳、(主幹)芹生祥子
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部長あいさつ ・第1回会議録の内容について確認 ・会議録の署名人について 会議毎に委員名簿のNo.の若い順に署名をお願いする。 第1回の署名人は藤原委員、山崎委員 ・鬼頭委員長よりあいさつ ・委員交代のため小薮委員よりあいさつ <p>2 議事</p> <p>加東市健康増進計画策定のためのアンケート調査資料により事務局から説明を行った。</p> <p>(1) アンケート結果集計について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効回収率 6歳未満児52.7%、20歳以上65歳未満34.2% 全体40.3% ・6歳未満児の調査結果について説明 ・20歳以上65歳未満アンケート調査結果比較表について説明 <p>(2) 今後の予定について</p> <p>来年度はアンケート結果をもとに計画を策定する。</p> <p>7月 計画の骨子を提示</p>

9月 計画案作成

11月 最終調整

【質疑応答・意見交換】

議長：調査の時期により結果に差が生じることがある。まず、6歳未満児についての意見を頂きたい。

委員：おやつは主にどのようなものを食べているかの問いに対して、スナック菓子という回答が多いが、スナック菓子は塩分が多く、おやつには適さない。適する物は何か。保健センターではどう指導されているかお聞きしたい。

事務局：幼児の場合、食事の1回量では必要な量をとりにくいため、健診や教室では補食として、おにぎり、サンドイッチ、果物、ヨーグルトなどを摂るように話している。スナック菓子などの菓子を与える時は、時間と量を決めて与えるよう指導している。

議長：子どものデータは、国のものとの比較はないのか。

事務局：6歳未満児アンケート調査結果比較表分のみで、他の比較データはない。

委員：前回に計画した時の背景はどこにあるのか。家族構成の違いによりアンケートの結果が異なってくる。

事務局：前は子どもについてのアンケートは取っていない。成人については、男女比、住んでいる地域に大きな違いはない。世帯構成については変化がある。

委員：6歳未満と、20歳から65歳未満とした理由はなにか。

事務局：現計画策定時に行ったアンケート調査と比較するため、前回と同様に20歳から65歳未満の方で無作為抽出とした。前回、子どもについては子育て支援課のデータを参考にしたが、今回は6歳未満児に対してもアンケート調査を実施した。

議長：前は子どものアンケートは取らずに、別で集めたデータを使用していたが、今回は子どもと成人の状況をあわせてアンケート調査をしたということである。

次に20歳以上65歳未満のアンケート調査結果比較表より気づいた点について意見をお願いしたい。平成20年と比べて下がっているところ、例えば1日あたりの歩数の減については、調査時期の違いによる季節的な影響が男女差にも現れている恐れはある。

委員：平成20年の調査は何月に行ったのか。

事務局：平成20年は10月7日から31日に行った。

議長：今回は12月6日から24日にかけて調査を行ったとのことであるが、10月が運動に適した時期にあることに対し、去年の12月は特に寒かったので、意識的に運動を心掛けている人でも（歩数が）下がっている可能性がある。

委員：1日当たりの女性の歩数が、平成20年は9,072歩に対し、平成25年は3,698歩と半分以下である。この大きな差は寒かったからなのか。ちなみに、個人的に

歩数を計測したことがあるが、家事のみで約3,000歩、グランドゴルフをした日は約7,000歩であった。時期の差であるといっても、寒いという理由だけで動かないのはよくないのではないか。

事務局：アンケート時期により歩数が減少したのか理由はわからないが、気になるデータである。

委員：糖尿病やコレステロールの値について、良いデータが出るのは10月頃である。夏場に動くことが多いためであり、2月から3月のデータは逆に一番悪くなる。前回の9,000歩が本当か疑問。持病のある方もあるし、仕事もあるので平均は5,000歩ぐらいではないか。意欲のある方や運動に興味のある方がアンケートに回答されたのではないか。

議長：同意見である。意識のある人は出す、意識のない人は出さない。回収率の40.3%は意識のある人といえる。

調査時期は違うが、このデータをもとにし、国のデータを参考にし計画を策定する。歩数については、歩数をあげる方法や取り組みを市として考えてみたらどうか。

委員：歩数については少ないほうの数値が普通ではないかと思う。

事務局：歩きやすい時期には歩いておられるので、寒い時期にも歩ける工夫をすることも大事である。サンサンチャレンジも、あえて太りやすい年末年始をチャレンジ期間としている。生活習慣が悪くなる時期をどう改善するかが課題である。

議長：栄養、食生活について

全般的には改善傾向にあるが、食生活に問題がある。改善意欲のある人が少ない。

委員：食べて運動しないから太る。酒や喫煙に年数、摂取量の基準があるように、食事をどれくらい食べたかによって基準が異なるのではないか。

事務局：食事量は個人の体重や仕事量により消費カロリーが異なるので、国民栄養調査の量を参考としている。

議長：歯に関する調査結果について

委員：歯科検診の数値はとても良いと思う。自分の歯が24本以上残っている方も多い。ブリッジをすると23本か24本か、素人目にはわかりにくい。子どもの虫歯の本数については、母が数える子どもの虫歯の数より、実際は多いことがあるので、専門医の診断が必要。

議長：こころの健康について

以前の調査では、ストレスを感じている人が、県下で加東市の女性の割合が高かった。平成20年の女性のストレス割合が84.3%に対し、平成25年が79.8%と減少

してはいるが、目標値は70%以下である。なぜ高いのか。県下でも住みやすい市の上位のはずなのに、こころの健康が良い状態でないのはなぜなのか。

委員：背景によるのではないか。娯楽が少なく気分転換の場がないことに加え、核家族であったり、3世代同居であったり、仕事をしている同居、高齢者との同居など色々なストレスの要因が考えられる。

議長：国の数値目標より低くする手立てを考える必要がある。

次に、追加資料の説明をお願いしたい。

事務局：かかりつけ医については50歳代から増加している。年代が下がるにつれて低い。運動習慣については、男性のほうが高い。飲酒の適量については年代により異なるので年代を考慮した指導が必要となる。

委員：行事食は大事、和食文化の見直しになる。学校にこの情報を伝え、学校通信などに掲載してもらうのはどうか。「早寝早起き朝ごはん」を小学生にも徹底できればと思う。アンケートの結果をどうアピールするか。計画策定までに、どこにどうアピールしたいか。子どもも高齢者も元気に過ごせるよう考えたい。

委員：行事食については、学校給食に取り入れている。給食で食べた物について子どもが家庭で話すことにより、家庭でも行事食を大切にできるようにしている。

7 次回の策定委員会： 7月頃の予定 都合が悪い方がある場合は調整可

8 その他

事務局より兵庫県腎友会シンポジウム及び加東サンサンチャレンジ表彰式&加東市認知症施策総合推進事業報告会について説明

9 閉会

26年5月2日

議長
署名人
署名人

鬼頭英明
小野義正
松尾美智子

